

※本リリースの情報解禁は 6/3(月) AM8時以降にてお願い致します



信念を買った看護師、花田ミキの生き様を映画いた感動作！満を辞しての劇場公開！出演者よりコメントもソクソク到着！

# 王林、伊勢佳世、初の本格的映画出演作！ 木野花 主演 実話を基にした映画『じょっぱり』劇場公開決定！ 「保健と看護」に命をささげた青森の女の生涯を描く

青森のナイチンゲールとも評される人物、花田ミキ。戦中戦後の激動期に八戸赤十字病院で看護に携わり、集団感染が起きたポリオ（小児マヒ）の治療法を広めるなど、地域の人々の命を救う為に生き抜いた半生を映画化した『じょっぱり』が7月2日より恵比寿・東京都写真美術館を皮切りに青森県のイオンシネマ等で全国公開となる。主演を務めるのは、NHK連続テレビ小説「ブギウギ」での演技が記憶に新しい木野花。青森県出身のタレント王林と実力派舞台女優として名を馳せる伊勢佳世が初の本格的映画出演を果たした。監督を務めたのは、これまで実在の人物を題材に映画製作を続けてきた青森県出身の五十嵐匠。本作の情報解禁に合わせて、木野花、王林、伊勢佳世、五十嵐監督よりコメントが届きました。初披露となる映画のポスタービジュアルと予告篇も必見。映画公式SNSと併せてぜひご覧ください。

## じょっぱり あらすじ

シングルマザーとして息子リクの子育てに追われる日々をおくっていたちさと（王林）は、仕事場のスーパーの常連である花田ミキ（木野花）と出逢う。人嫌いとして近所でも有名であった花田だが、ちさとやリクとの何気ない日々を過ごす中で、人のぬくもりに触れ、自然と心を通わせていく。花田は自分がかつて看護師であったことをちさとに告白し、当時の社会情勢や自分が今までどのような生き方をしてきたのかについて語り始める。花田の若い頃（伊勢佳世）の姿は、八戸赤十字病院で集団感染が起きたポリオの治療法を広め、看護に対して誰よりも直向きに向き合い、生き抜いた姿だった。ちとさは、幼い頃に亡くなった自分の母親も看護師であったことから、花田により親近感を抱くようになっていったのだが……



### 『じょっぱり 看護の人 花田ミキ』主演 木野花 コメント



## 木野花（きののはな）

### 【プロフィール】

青森県出身。弘前大学教育学部を卒業後、公立中学校の美術教師となるも1年で退職、上京し演劇の世界に入る。1974年、女性だけの劇団「青い鳥」を結成。以後80年代小劇場ブームの旗手的な存在となる。86年同劇団を退団。演出家として2023年「阿修羅のごとく」で読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。女優として2019年『愛しのアイリーン』でキネマ旬報助演女優賞を受賞。2024年『バカ塗りの娘』で日本映画批評家大賞ゴールデン・グローリー賞を受賞する。

### 【コメント】

子供の頃、「じょっぱり」と言われたことは何度もあります。でも花田ミキさんの「じょっぱり」は次元が違いました。従軍看護婦として三度戦場に赴き、回復してはまた戦場に向かう兵士達を「死なせるために看護したのか」と無力感に苛まれ、「命を阻むものは全て悪」と心に刻んだ人。戦後、県民の命と健康を守るため文字通り身を粉にして、町から村へと保健指導に駆け巡り、看護学院の創設に奔走した人。こんな人が青森にいたのか、なぜ知らなかったのか驚きました。花田ミキを演じるのは怖いと思いました。こういう偉業を成し遂げた人がどんな最後を迎えるのか、何を演じても嘘をつくなど叱られそうな気がする。手掛かりは一つだけ。花田ミキは晩年老いた姿を晒すことを嫌い「人嫌い」になっていったけど、最後に心を開いたシングルマザーの若い母親と息子。この親子との出会いが全てだと思いました。やがて来る自分自身の晩年を重ね合わせる思いで、二人と向き合ってみようと思いました。撮り終わったら、花田ミキさんがこの時代を生きていたらどう思うだろう、どう生きるだろうと思わずにいられません。

## 『じょっぱり 看護の人 花田ミキ』 出演者 王林／伊勢佳世 コメント

## 王林（おうりん）

## 【プロフィール】

1998年青森県弘前市生まれ。小学3年から「弘前アクターズスクール」に入り、2007年から『アルプスおとめ』・2013年に姉妹グループの『りんご娘』に7期メンバーとして加入し、2022年3月までリーダーとして活動。



## 【コメント】

これまで演技に挑戦することに抵抗があったのですが、今回の映画は、青森を舞台に、青森の魂を持った花田ミキさんの物語ということで、初めて演技に取り組んだ作品です。ぜひ、多くの人に届くと嬉しいです。

## 伊勢佳世（いせかよ）

## 【プロフィール】

2008年、劇団イキウメに参加。2016年退団までほぼ全作に出演。近年の主な映画出演作に『劇場版 美しい彼～eternal～』、『HIEROPHANIE／ヒエロファニー』、舞台にNODA・MAP「Q」、こまつ座「父と暮せば」など。



## 【コメント】

五十嵐監督はじめスタッフ・共演者の皆さんとの撮影を通して、映画の面白さ、花田ミキさんという人間の面白さに毎日感動していました。花田ミキさんのことをたくさんの人に知って頂けたら嬉しいです。

## 『じょっぱり 看護の人 花田ミキ』 監督 コメント

## 五十嵐匠（いがらししょう） 映画監督

## 【プロフィール】

1958年青森県生まれ。立教大学時代、シナリオセンターに通うかたわら自主映画を制作。岩波映画・四宮鉄男監督に師事し、「津軽」(86')、「ナンミン・ロード」(92')を監督。96年にはピューリッツァー賞カメラマン沢田教一の軌跡を追ったドキュメンタリー映画「SAWADA」で毎日映画コンクール文化映画部門グランプリ、キネマ旬報・文化映画グランプリなど数々の賞を受賞。その後もカンボジアで消息を絶った戦場カメラマン・一ノ瀬泰造を映画化した「地雷を踏んだらサヨウナラ」(00' 浅野忠信主演)、「みずぶ」(01' 田中美里主演)、「HAZAN」(03' 榎木孝明主演)、「長州ファイブ」(07' 松田龍平主演)などを監督。国内外で高い評価を得ている。

## 【コメント】

1960年5月25日の午後5時50分。青森県弘前市から青森市に向かう奥羽線の列車の中で一人の母親が赤子を抱き、「お医者さんがいませんか」と泣き叫んでいました。抱かれたその子はハシカで高熱を出し、すでに呼吸は停止。その子は乗り合わせていた保健師の手当てと適切な処理で、浪岡駅で降ろされ、自衛隊グループに乗り浪岡病院、青森市へとリレーされ一命をとりとめました。2歳の男の子の命を救ったその保健師は花田ミキと名乗りました。そして、死にかけたその子が私でした。この映画を通して、自分の身を顧みず「保健と看護という職業」に命をささげた女性のたくましさ、やさしさ、そして命の尊さを綴ります。



## 『じょっぱり 看護の人 花田ミキ』 映画公式SNSアカウント情報

2024年7月2日より 東京都写真美術館、イオンシネマ新青森 イオンシネマ弘前 他、全国順次公開

# じょっぱり

看護の人 花田ミキ

製作：ストームピクチャーズ/制作プロダクション：トロッコフィルム/配給宣伝：ポルトレ  
/後援 日本赤十字社/日本看護協会2024年/日本/90分/カラー/ビスタサイズ/©stormpictures

公式HP：<https://hanadamiki.com/>（6月3日リニューアル）

公式予告編：[https://youtu.be/Zw\\_uV0qQdA4](https://youtu.be/Zw_uV0qQdA4)

公式SNSアカウント情報

X(Twitter)：[https://twitter.com/hanada\\_miki](https://twitter.com/hanada_miki)

facebook：<https://www.facebook.com/hanadamiki/>



お問い合わせは以下まで  
配給・宣伝：ポルトレ（石原）

[info@portrait-c.com](mailto:info@portrait-c.com) / 代表：03-6456-3990  
携帯：090-6270-2836